

# 十二月の保育

## 生活訓練

### 倉橋惣三

節季師走。そんなことは子ども達には無頓着である。寒風蕭條、そんなことも子ども達には平氣である。十二月といふ月は、なんとなく世帯染みた、諸事あわただしい月のやうに感じられるが、それはおとなの十二月であつて、子どもの世界ではない。それを、どうも自分等の氣もちにかまけて、子どもの爲に此の月を粗末にしかねないのは、よく氣をつけたいことである。

生活訓練といふと、たゞもう、かう訓練しあへ、黙けてと、目的の方、結果の方ばかりに走り易い。しかし、生活訓練は生活訓練である。子ども達のその時の生活を一ぱいに尊重することから始まるものである。生活の中でする訓練。生活によつてする訓練。生活になる訓練といふ意味に相違ないが、それには、子どもの生活そのものを理解してやり、大切にしてやることなしには出来ない。生活の樂しみを先づ樂ませ、生活の喜びを先づ喜ばせてこそ、その生活を眞に生活させることが出来る。生活を眞に生活させてこそ、その訓練も生きた生活の中に生きる。——これは、

月々同じことであつた。即ちその月々の生活を充分生き／＼と生活させることが、その月々の生活訓練の第一の要件なのである。花を喜ばせてこそ春四月の生活訓練がある。水を樂ませてこそ夏八月の生活訓練がある。秋の日々の生活訓練がそうなるのも言ふまでもない。——冬十二月の生活訓練も、子どもの十二月を、眞に子どもものものとして大切にすることから始まるのである。

それを、おとなが時々忘れる。そうして、自分等の忙しさを、年末感にまぎれて、子どもの生活の一切を、おそろ／＼にして仕舞つたりする。その上、一切の子どもの生活を、来るべき次の月、すなはち正月に譲つて仕舞ひ、推しやつて仕舞ひ、おあづけにして仕舞つたりする。とんでもないことである。もつてのほかのことである。眞に、もつたいないことである。年の暮だつて子どもには、何が暮れだ。お正月はお正月で樂しい。年の始めの喜びは多いことに相違ない。しかし、十二月が、たゞそれを待つただけにされてはつまらない話である。子ども、殊に幼児には現在のみが眞の生活である。今日を充實しないで何んの生活があらう。い、お正月が約束されてゐるからといつて、十二月の此の一日々々の生活が、少しでも、ぞんざいに取扱はれてはつまらない。たまらない。況んや、現在をたゞ過去の結末とだけ考へて、一年の回顧なんかにかのみ使はれては、幼児にとつて一層たまらない。此の貴い現在十二月の生活を、過ぎ去つた今年と来るべき明年との間にはさまつた、ほんの袂まりものゝやうに扱はれたりしては、幼児はどんなに、つまらないことだらう。

十二月の寒さは、地方によつて差があるにしても、先づ、室内本位になり易い月といへよう。子ども自身は風の子すなはち冬も戸外の生物といはれるが、幼稚園の子はまだ風の子の弟や妹であるので、聊か寒さにかじかんだりする。その上、その幼さをいづくしむといふか、いたわるといふか、あやぶむといふか、何んといつても風の來ない室内に仕舞ひ込んで置かうとする。その上、御自身のお寒さも手傳つてと申し上げては濟まないが、自らさきに立つて、子ども達を外へ外へと誘ひ出す保姆さんは少ない。そうすると、子ども、それに慣れ、それに弱められて室内生物になる。頬を紅くして呉れる冬の空氣の爽かさを嫌ひ、たこを舞ひ上らせて呉れる北の風の勇ましさを畏れ、年寄りくさくさかじかんで仕舞ふ。ところで、之れが健康鍛練の上によくはないことはいふまでもないが、生活訓練としても極めて望ましくない躰けである。若しこれを一つの躰けとし名をつければ、弱化躰けとでもいはいうか、性格を強くすることを根本とする躰けの本義とは全く反對のことになる。春の戸外は軟風の快さである。夏の戸外は清風の快さである。秋の戸外は晴風の快さである。別に躰けられなくても出たくなる戸外である。その戸外生活の習慣が養はれたからとて、性格上に何んの貴さがあることでもない。冬の戸外生活こそは、鍛へられる生活であり、鍛へられた生活であり、一つの貴い躰けである。それも、たと寒風に吹かれて直立してゐる躰けではない。かける、とぶ、はねる。風が吹けばその風に向つて走る。ぶらんこに乗ればその風を切つて漕ぐ。冬の風そのものは烈げし

く、その寒さこそは嚴しいが、斯うして冬の生活を快しとするのである。大きな躰け、強化躰けである。

寒い日を強いて戸外に出ないとしても、寒さは室内にもあり、その寒さに負けたらゝの不行儀があり易い。殊に、家庭の朝夕に、冬の不精といふことが澤山ある。ふところ、に引込む手、火鉢を離れない手、厚着に重い足、こたつを出ない足。不精は生活の弱さでもあり、だらしなさである。うんと強く躰けなければならぬことである。

### 自由遊戯

#### 上遠文子

すつかり枯葉も落ちてしまつた梢に吹く北風も寒さうに音を立て、居ます。大人には、寒い冬、忙しいこの月が、子供達には、目の前に待つてゐるお正月を指折敷へてまつ楽しい月なのです。この月は寒さも次第にきびしくなりますので、屋内保育の場合が多くなる事です。室内だと、さかく不衛生になりがちですので、換氣は常に忘れず、晴天の午後は外で遊ぶ様に致しませう。子供は風の子です。

紙飛行機とはし 大東亞の空に武勳を立てゝある 海鷲、陸鷲のお話を聞くたびに、小さい僕達も拳を握つてしまふ。古くなつた雑誌をほごして、紙飛行機を作りました。年長組の子供は一人て種々の形の飛行機を折ります。その折方で、よく飛ぶので自分